

令和3年度

佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

佐々町教育委員会

〈参考〉 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 目 次

はじめに	1
1 趣旨	2
2 点検・評価の対象	2
3 点検・評価の方法	2
4 外部評価委員の意見	3～7
5 自己点検・評価総括表	8
6 令和3年度佐々町教育委員会自己点検・評価シート	9～17

はじめに

佐々町では、平成24年に第1期の教育振興基本計画を策定し、本町教育の充実に努めてきました。

この間、小・中学校において新学習指導要領が全面実施になり、授業時数の増加や小学校における外国語活動の導入、言語活動の充実・理数教育の充実・道徳教育の充実等の改訂が行われました。その後も、国では「教育の再生」を最重要課題の一つとして掲げ「教育再生実行会議」において、「いじめ対策」「グローバル化への対応」といった具体的な事項から「教育委員会制度の在り方」等の基本的な制度改革まで幅広い検討がなされ、今後も急速な教育改革が予想されます。そのような中で、平成27年3月には新学習指導要領の一部改正が行われ「道徳」が「特別の教科 道徳」になるなどの大きな変化がありました。さらに、平成29年度中には平成32年の完全実施を目指した学習指導要領の改訂がなされました。

また、少子高齢化や国際化・グローバル化等のさらなる進展に加えて、未曾有の大災害の発生や全国的に顕在化した深刻ないじめ・体罰問題、情報モラルの問題など教育を取り巻く環境も大きく変化してきました。

本町でも、平成27年10月に「佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」が、平成28年度に「第6次佐々町総合計画・後期基本計画」が策定され、教育が「まちづくり」に果たすべき役割も示されました。

これらの動きに対応して、電子黒板の全教室配置等の教育環境の充実や、町内の3つの小・中学校による3校共同研究の充実による教職員の研修機会の確保や、「佐々っ子応援団」活動の推進による学校・家庭・地域の連携の推進等を行い多くの成果を上げてきました。

平成29年度に策定した第2期佐々町教育振興基本計画は、これらの教育を取り巻く環境の急速な変化と第一期計画の成果と課題を踏まえた上で、「21世紀を豊かに生きる地域づくりと人づくり」を目指して本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組んでいこうとするものです。

こうした計画の実現に向けた取組については、教育委員会が高い使命感をもって責任を果たすとともに、教育行政の体制の整備及び充実に努め、効果的な教育行政を推進するため、令和3年度の教育委員会活動の点検及び評価を実施し、報告書として取りまとめました。

令和5年2月

佐々町教育委員会

教育長 黒川 雅 孝

## 1 趣旨

佐々町教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにしております。

佐々町教育委員会では、このことを踏まえて効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出し、また一般に公表することにより、町民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

## 2 点検・評価の対象

点検及び評価は、前年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施するものとし、本年度は令和3年度に実施いたしました事業について点検及び評価を実施いたしました。

## 3 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、「第6次佐々町総合計画・後期基本計画」や「佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関連を図りつつ

- ① 文章表現は要点を記載する。
- ② 「活動指標」に具体的な取り組みを記載して取り組みを明確にするとともに、評価を行う。
- ③ 「成果指標」を明確にすることで進捗状況や、その成果を明らかにすることにした。

「活動指標」と「成果指標」を明確に分けることを試みましたが、活動がそのまま成果になる施策もあり、「活動指標」と「成果指標」が類似した設定となる部分も生じました。

また、5年間の計画ではあるものの、今後の急速な教育改革が予想されることから、「活動指標」と「成果指標」については毎年度見直しを行うとともに、内容についても必要に応じて見直しを行い、現状と計画の乖離をなくすようにします。

評価については、下記のように行います。

### 【活動指標】

- ・4段階評価とする。
  - ・教育委員会の自己評価に加えて学校等による自己評価を行う。
  - ・評価 3.20 以上を「A」、3.19～2.80 を「B」、2.79～2.40 を「C」、2.39 以下を「D」とする。
- なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

### 【成果指標】

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。
- なお、第2期佐々町教育振興基本計画の改善のため、評価は、平成28年度実績から行います。

また、客観性を確保するための外部評価については、次のとおり外部評価委員会を設け評価を受け、その委員の意見をまとめました。

○佐々町教育委員会外部評価委員名簿

氏名	所属等	任期
池田 浩	元長崎大学教授	令和3年4月1日～令和5年3月31日
村川 勝彦	元公立小学校校長	平成3年4月1日～令和5年3月31日

#### 4 外部評価委員の意見

教育委員会の活動指標及び成果指標に基づき、それぞれの委員の意見を記述しています。

(池田委員)

##### 1 佐々町教育委員会自己点検・評価シートについて

当該年度もコロナウィルス感染症拡大は収束の気配を見せず教育推進にも影響を与え続けている。こうした困難な状況にあって佐々町教育委員会は、本町の実態、課題と向き合い充実した教育の推進に取り組み実績を積み上げられている。特に、学校等各教育施設における評価と本町教育振興基本計画を連動させた取組は、教職員等関係職員の目標の意識化を図る上で効果をあげていると拝察する。定例会においては教育長による教育情報や町内教育全般にわたっての報告が具体的に時宜を逸することなく提供され、各教育委員の本町の現状、課題の共通認識をもとにした活発な議論が展開されている。こうした議論が本町教育施策の円滑な推進に繋がっているのではないかと考える。自己点検・評価においても非該当事項以外はすべて A 評価であり、「振興基本計画及び学校評価のガイドライン策定」、「小学校教室増設及び屋外トイレ改修」の提言等、実態を踏まえた安定した運営がなされている。また、学校訪問でも定例的な訪問に加えタブレットを活用した授業の参観等、目的を明確にした取組がなされている。単に数値等だけではなく実際に現場に足を運び、そこで得る課題や成果等も委員会の議論を深めるための貴重な機会といえる。今後も教職員、地域住民及び関係機関等と連携・協働した取組をさらに進められ次代に生きる人材が育成されるよう期待したい。

##### 2 教育委員会自己点検・評価について

紙面の都合上、特に課題と感じたことや推進に向けて期待したいことを中心に記述したい。

###### (1)一人一人の可能性を伸ばす教育の推進

次代を生きる子供たちの基盤となる学力の定着、情報教育、幼児教育、特別支援教育の推進等No.15「県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生」のB評価を除きすべての項目においてA評価となっている。中学校英語は長年の課題ではあるが、外部指導者の招聘、校内研修を中心とした授業改善等の取組によって県学力調査(英語)で県平均を上回る等その成果が表れている。小学校においても課題を共有しICT教育の活用等、より効果的な授業改善に取り組み成果を上げている。両校の取組みと成果に若干の差がみられるが、課題分析、授業改善の在り方等、小中一貫して協働して取り組むべき課題も多い。多

忙化が問われている学校現場ではあるがICTを活用した合同研修等さらに工夫した取組が進められるよう期待したい。また、タブレットを活用した授業支援等も教育委員会と学校が情報を共有し試行を繰り返しながらより効果的な活用方法について実践が図られている。成果指標No.11「ICTを活用して学習に取り組む児童生徒」89%、No.12「ICTを活用して授業ができる教員」100%にもその成果が見て取れる。

## (2)豊かな人間性、社会性を育む教育の推進

活動指標、成果指標ともにほとんどの項目でA評価となっている。すべての項目にいえることであるが成果指標No.28「いじめ解消率」100%、活動指標No.67~69「体験活動の推進」は、コロナ禍の中にあっても、児童生徒の心を育もうとする各校の教職員の思いと取組の成果ではないかと考える。豊かな人間性は、人との交わりの中で形づくられていく。地域住民を含む多くの人々のかかわりの中で佐々の子供たちが豊かに成長している様子が数値の中からも感じ取れる。現状を踏まえ、多くの方々と課題と取組を共有し成果に繋げる取り組みが今後も進められればと願う。「⑦読書活動推進」における「読み聞かせ」「学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数」は昨年度比較し改善の方向ではあるが、中学校においては依然厳しい状況が続いている。言語活動の充実は、今求められている学力の基盤をなす力である。「止まった文字」を通して物事を考える、判断する、思いを深める力は、時間をかけて身につく力であり、また、その育ちに読書環境が大きな影響を与えることは全国学習状況調査結果からも指摘されている。読書習慣が学力向上だけでなく、創造性・創造性を含む豊かな人間性、社会性を育むために重要であることの認識を共有されさらに充実した取組となられるよう期待したい。

## (3)健やかな体を育成する教育の推進

新型コロナウイルス感染症対策等に万全を期すとともに、懸念された児童生徒の体力向上・維持についても各校で工夫された跡が活動指標の結果からも窺える。成果指標においても全国体力・運動能力調査において全国比とほぼ変わらない数値となっている。食育の観点からはコロナ禍の中、教室等での指導に困難が生じ低い数値結果となっている。難しい面も多いと思われるが、食育は基本的な生活習慣の定着とともに健やかな体を育成する基盤である。対面型だけにこだわらず、指導方法の検討や保護者等と連携した取組等の工夫改善も望みたい。

## (4)学校・家庭・地域の連携の推進

地域社会と連携した教育の推進は、本町教育の特色として挙げられる取組みの一つである。特に「佐々っ子応援団」のあいさつ運動等の取組は、コロナ禍の中にあっても地域の力を引き出す取り組みとして意義があると考えられる。成果指標No.56,57の内容である「放課後子ども教室」や「土曜学習」等は数値的に厳しい状況にあるが、視点を変えICT活用や英語等指導者の発掘、体面によらず指導できるICT機器を活用したシステムの構築等、ピンチをチャンスに変え新たな支援者の拡充や児童生徒への支援の方法も考えられる。地域には思う以上に教育に関心や支援のための能力を持ち「私でよければ」と意欲を持たれる方々もおられる。引き出すチャンスでもある。

## (5)生涯学習・社会教育の推進

コロナ社会は、人とのつながり・交流を妨げるとともに人の学びの機会を縮小させている。特に ICT 機器等の利用が難しいシニア世代においては、その影響が顕著に表れたのではない。成果指標No.61「各種講座参加者数」D 評価、No.64「町民一人当たりの貸出冊数」B 評価は、その一つではないかと考える。また、No.65「読み聞かせの参加世帯数」D 評価は、致し方ない面もあるが、乳幼児期に形成される言語能力の基礎となる機会としてその後の成長に影響を及ぼす懸念も感じる。そこで培われる能力は、学び続ける力や人と繋がるコミュニケーション力の形成に大きな影響を及ぼすといわれている。乳幼児期の読書環境の提供は、保護者への啓発・支援が重要であるが、教育分野だけではなく福祉分野等とも連携・連動した取組をさらに進められるよう望みたい。また、シニア層だけに限らず町民の学びの拠点としての公民館、図書館は、常に自らを高め、佐々に生きる一人として生きがい、暮らしがいを高める場や機会を提供する重要な施設である。人口減少等により縮小していく地域社会においては特に大切にされるべき施設といえる。社会がどのように変化しても世代に応じた学びの場や機会を失った地域に未来はないと考えている。本町の素晴らしい教育施設と蓄積された教育の財産をもとに、今後も地域の方々が生涯にわたって学び続け、地域社会とつながりを持ちながら、次代に向けて新しい地域文化を創造していけるよう期待している。

## (村川委員)

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症に係る活動制限や感染予防対策への対応に多くの時間と労力を割かれた1年となり、特に人々が集い、集いの中で多くの学びが生まれるという活動場面が制限されたことによる影響が大きかったことが、成果指標大項目10項目中3項目の評価が前年度の評価を下回ったことに表れている。しかしながら、厳しい状況下でも、他の7項目については前年度に引き続き「A」を達成できたのは、様々な創意工夫・努力によって各種活動がなされたからであり、佐々町の教育活動に取り組みされてきた方々の不断の努力に敬意を表したい。

## 2 教育委員会自己点検・評価について

### ① 一人一人の可能性を伸ばす教育

児童・生徒一人一人の可能性を伸ばすには、児童生徒が自己実現をするための学力保障が必須である。小中学校ともに、全国学力調査では全国平均を上回ることができており、県学力調査では、中学3年生がこれまで課題とされてきた英語で初めて県平均を上回ることができた。(所見 教育員会)ITC 機器が授業において積極的かつ有効に活用されている実態がある(成果指標 No2)ので、学習内容の理解を深めるツールとして、ITC 機器を積極的に学習に活用することができる児童生徒の育成に努めていただきたい。(成果指標 No11)また、個に応じた指導の実践のために、特性を持つ児童生徒の指導だけでなく、教育活動全般において特別支援教育の視点を持って取り組むことができる職員の育成を図っていただきたい。(成果指標 No20)

3校研は、佐々町内の小中学校が連携して子どもたちを育成するための特色ある活動であり、小中学校間での授業研究の交流なども計画的に行われている。(成果指標 No8)教師の授業力向上のために、今後も積極的に取り組んでいただきたい。



## ② 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進

ふるさと教育、道徳教育、人権教育は、活動指標・成果指標共に「A」を達成することができ、達成度もすべての項目で 2.0 ポイント以上の伸びを見せている。授業のみならず日々の教育活動の積み重ねの結果と考えられる。(成果指標 No21,24,25)

いじめの解消率は昨年度に引き続き、活動指標・成果指標共に「A」達成度 100%である(成果指標 No26)が、「いじめ事案に対しての対応完了＝いじめの解消」という大人目線での評価とならぬよう、対応完了後ある程度の時間が経過した時点での児童生徒の状況に基づいた評価内容を検討していただきたい。

体験活動については、感染予防に係る多くの制限がある中でも、活動指標・成果指標共に「A」を達成できている。(活動指標 No67.68 成果指標 No29)特に学校等の活動指標については、達成度がそれぞれ 0.3 ポイント上昇しており、目標達成のために多くの工夫がなされたことがうかがえる。今後も、保護者や地域の協力を得ながら、活動内容の充実を図っていただきたい。

学校図書の一人当たりの貸出冊数は、小中学校ともに増加しているが、中学校はまだまだ厳しい状況である。(成果指標 No30)引き続き、貸出数増加のために取り組みを続けていただきたい。

小学校の読み聞かせについては、読み聞かせボランティアに高齢の方が多く、感染後の重症化リスクが高いことなどから、実施回数が減少したこと(活動指標 No71)は否めないが、デジタル教材の活用などにより、児童の耳を育てる活動に継続して取り組んでいただきたい。

## ③ 健やかな体を育成する教育の推進

栄養職員による「食」に関する指導は、活動指標は「D」から「C」、成果指標は「D」であったが、実施回数が前年度の5回から 17.7 回となり(活動指標 No84 成果指標 No38)、指導に努めたことがうかがえる。「食育だより」「佐々子ゆめプラン」も積極的に活用されている(活動指標 No83.85)が、朝食の摂取率が若干低下している。(成果指標 No39)家庭への啓発をさらに進めていただきたい。

## ④ 信頼される学校づくりの推進

ほとんどの項目が「A」であったが、自分にはよいところがあるという児童生徒の割合が 78.9%で「B」であった。(成果指標 No43)今後も、児童生徒が自身のよさや成長を実感できる教育活動に取り組み、自己肯定感を持つことができる児童生徒の育成をすすめていただきたい。

不登校児童生徒の割合は県平均を下回っていた(成果指標 No41)が、校種別でみたとき、小学校は県平均以下であったが、中学校は県平均を大きく上回った。(所見 教育員会)学校において、正しい児童生徒理解に基づいた不登校の予防・対応を進めるために、職員の力量を高める研修に取り組んでいただきたい。また、対応については、学校だけでなく地域の方々の協力を仰ぎながら、不登校児童生徒が、「学校とのつながり」或は「人とのつながり」を保てるようにしていただきたい。

#### ⑤ 教育環境整備の推進

施設・設備等の整備のみならず、「佐々っ子応援団」等の人的資源の活用が十分になされており、全ての項目が「A」であった。様々な制限がある中での取組を高く評価したい。

#### ⑥ 学校・家庭・地域の連携の推進

新型コロナウイルス感染症流行による、放課後子ども教室や土曜学習教室の参加児童数の減少(成果指標 No56,57)などの厳しい状況下でも、前年度に引き続き「佐々っ子応援団」を中心とした挨拶運動参加者数や学校支援ボランティアの成果指標が「A」であった(成果指標 No58,59,60)ことは、地域・保護者の学校教育に対する熱い思いの表れであり、地域・保護者の思いを醸成し、強固な関係を構築してきた学校・行政の日々の取組を高く評価したい。

#### ⑦ 生涯学習・社会教育の推進

各種講座や読み聞かせへの参加者数は減少している(成果指標 No61,65)が、開催数の減少によるものと考えられる。公民館活動への参加者数や講座参加者の満足度は前年度に引き続き「A」であり(成果指標 No62,63)、活動が制限された中での、内容を充実するための計画立案・運営を高く評価したい。

#### ⑧ 生涯スポーツの推進

社会体育施設の利用者数以外の項目は「A」であったが、社会体育施設利用者数は前年度に引き続き減少傾向にある。(成果指標 No71)新型コロナウイルス感染症流行下でのスポーツイベントの開催も含め、実施方法の検討が必要と考えられる。

#### ⑨ 芸術・文化を守り、育てる活動の推進

感染予防のために開催回数は減少したが、郷土史学習への取組は積極的に実施され、特に町が作成した「佐々町博士」(歴史分野)の活用が十分になされた(活動指標 No126,127 成果指標 No74,75)ことは、今後の郷土史学習につながるものとして評価したい。

#### ⑩ 新たな地域文化創造の推進

新たな地域文化の創造・発信の舞台となる文化会館と地域交流センターの利用者については、感染予防に係る制限という縛りはあるが、今後も対応基準に応じながら利用者拡大の手立てを講じていただきたい。(成果指標 No81,83)

新型コロナウイルス感染症については、感染状況は一進一退を繰り返したままで、対応基準の見直しは図られてはいるが、状況が激的に改善する兆しはない。これからもみんなで知恵を出し合い、学校・地域・保護者・行政が協働して、未来を担う子どもたち、その子どもたちを取り巻く大人のより良き学びを実現していただきたい。

## 令和3年度 佐々町教育委員会自己点検・評価総括表

平成29年4月より第2期佐々町教育振興基本計画(Plan)により、本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組むこととしましたが、評価については平成28年度実績から行き、その改善に資することとしました。

評価には、具体的な取り組みを記載した「活動指標」と進捗状況や成果を記載する「成果指標」を設定し、「何を行い(Do)」、「その結果がどうだったか(Check)」が明確になるようにしました。

また、教育委員会や評価委員会において評価結果について検討することで改善(Action)につなげることとしました。なお、「活動指標」及び「成果指標」は下記のように評価しました。

なお、成果指標「N0.13」及び「No.14」については、調査の裏付けとなる長崎県教育委員会の学校運営調査の表現が変わったため、「評価の内容」の記載を変更しました。

表現が変わっただけで、内容は同じであることから、「現状値」「目標値」等の変更は行いませんでした。

変更箇所については、一覧表中に青で塗りつぶして表示しました。

### ○活動指標

- ・4段階評価とする。
- ・評価3.20以上を「A」、3.19～2.80を「B」、2.79～2.40を「C」、2.39以下を「D」とする。なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

### ○成果指標

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

### 【総括表】

#### (活動指標)

	教育委員会	学校等	割合	A+Bの割合
A	96	119	100.0%	100.0%
B	0	0	0.0%	
C	0	0	0.0%	
D	0	0	0.0%	
計	96	119	100.0%	

#### (成果指標)

	数	割合	A+Bの割合
A	66	90.4%	94.5%
B	3	4.1%	
C	0	0.0%	
D	4	5.5%	
計	73	100.0%	

大項目	活動指標	成果指標
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	A	A
2 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進	A	B
3 健やかな体を育成する教育の推進	A	A
4 信頼される学校づくりの推進	A	A
5 教育環境整備の推進	A	A
6 学校・家庭・地域の連携の推進	A	A
7 生涯学習・社会教育の推進	A	A
8 生涯スポーツの推進	A	A
9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	A	C
10 新たな地域文化創造の推進	A	C

令和3年度 教育委員会自己点検・評価

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値					
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査	
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	① 基礎的・基本的な学習の充実	1	学習指導要領の適切な実施への指導	4.0	A	学習指導要領の適切な実施	学校等	4.0	A	1	3校研における公開授業の開催数	3回	3回以上	3.0	100.0%	A	実態調査	3.0	
		2	教材・教具の充実のための支援	4.0	A	教材・教具の充実	学校等	4.0	A	2	「ICT機器を使った授業の内容はよく分かる」と答えた児童生徒の割合	69%	90%以上	91.0	101.1%	A	学校運営調査	85.2	
		3	授業改善の指導・支援	4.0	A	授業改善の推進	学校等	4.0	A	3	自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合	58%	70%	63.0	90.0%	A	全国学力調査	-	
		4	ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	ICT教育の推進	学校等	4.0	A										
		5	学校訪問による指導	4.0	A	経年経過研修の効果的な実施	学校等	4.0	A										
		6	3校共同研究の支援・指導	3.7	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A										
		7	校内研修の支援・指導	4.0	A	校内研修の効果的な実施	学校等	4.0	A										
		8	職員研修の推進・支援	4.0	A	職員研修の効果的な実施	学校等	4.0	A										
		9	加配教員の活用のための支援	4.0	A	加配教員の効果的な活用	学校等	4.0	A										
		10	学力向上支援員の配置	4.0	A	学力向上支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A										
		11	サポート・ティーチャー配置への支援	-	-	サポート・ティーチャーの効果的な活用	学校等	2.7	C										
		12	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A										
		13	学力向上のための指導・支援	4.0	A	学力向上のための取組の充実	学校等	4.0	A										
		14				家庭学習の習慣化の指導	学校等	4.0	A										
		15				授業規律の徹底	学校等	4.0	A										
		16				校内研究授業の効果的な実施	学校等	4.0	A										
	17	② 知識・技能の習得と活用する力を育む取組の推進	17	横断的・総合的な学習への支援	4.0	A	横断的・総合的な学習の効果的な実施	学校等	4.0	A	4	横断的・総合的な学習の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
	18		体験活動実施への支援	4.0	A	体験活動の効果的な実施	学校等	4.0	A	5	ボランティア活動など社会奉仕に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	学校運営調査	100.0	
	19		佐々町学力調査実施・活用への支援	3.7	A	佐々町学力調査結果向上への取組	学校等	4.0	A	6	佐々町学力調査の到達度	1.00	1.00以上	0.95	94.7%	A	町学力調査	1.01	
	20		全国学力調査実施・活用への支援	4.0	A	全国学力調査結果向上への取組	学校等	4.0	A	7	全国学力調査の到達度	0.99	1.00以上	0.99	99.0%	A	全国学力調査	1.01	
	21	③ 学校間の連携の推進	21	3校共同研究の支援・指導	3.7	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A	8	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数	3回	3回以上	3.0	100.0%	A	実態調査	3.0
	22		「佐々っ子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々っ子ゆめプラン」の啓発	学校等	4.0	A	9	中学校体験入学の実施率	100%	100%を維持	0.0	0.0%	D	実態調査	100.0	
	23					中学校体験入学の効果的な実施	学校等	0.0	D	10	両小学校交流の実施率	100%	100%を維持	0.0	0.0%	D	実態調査	-	
	24					両小学校交流機会の設定	学校等	0.0	D										
	25	④ 情報教育の推進	25	ICT支援員の配置	4.0	A	ICT支援員の有効な活用	学校等	4.0	A	11	ICTを活用して学習に取り組むことができる児童生徒の割合	68%	100%	89.0	89.0%	A	学校運営調査	63.3
	26		ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	電子黒板の効果的な活用	学校等	4.0	A	12	授業中にICTを活用して授業ができる教員の割合	データなし	100%	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0	
	27					タブレットPCの効果的な活用	学校等	4.0	A										
	28					情報教育の適切な実施(中学校)	学校等	4.0	A										
	29					情報モラル教育の適切な実施	学校等	4.0	A										

大項目	中項目	活動指標						成果指標						該当年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	⑤ 外国語教育・国際理解教育の推進	30	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A	13	簡単な挨拶や自己紹介などを英語ですることができる小学生の割合	94%	95%	94.5	99.5%	A	学校運営調査	87.5
		31	外国語活動の適切な実施への支援(小学校)	4.0	A	外国語活動の適切な実施(小学校)	学校等	4.0	A	14	知っている英語を使って、日常生活や好きなことなどについて、簡単な英語で話すことができる中学生の割合	51%	70%	79.3	113.3%	A	学校運営調査	82.4
		32	英語力向上のための取組の支援(中学校)	4.0	A	英語力向上のための取組の推進(中学校)	学校等	4.0	A	15	県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合	43%	70%	55.6	79.4%	B	実態調査	55.6
	⑥ キャリア教育の推進	33	キャリア教育推進のための支援	4.0	A	地域人材等を活用した「生き方」を学ぶ機会の提供	学校等	4.0	A	16	夢や憧れがある児童の割合(小学校)	93%	100%	85.0	85.0%	A	学校運営調査	94.5
		34				勤労・生産的な学習の実施	学校等	4.0	A	17	夢の実現に向けて行動している生徒の割合(中学校)	64%	100%	91.0	91.0%	A	学校運営調査	91.1
		35				職業に関連する学習の実施	学校等	4.0	A									
		36				職場見学を含む学習の実施(小学校)	学校等	4.0	A									
		37				職場体験の実施(中学校)	学校等	4.0	A									
	⑦ 幼児教育の推進	38	幼児教育の適切な実施への支援・指導	4.0	A	幼児教育の適切な実施	幼稚園			18	小学校体験入学の実施率	100%	100%を維持				実態調査	
		39	就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	幼稚園											
		40	幼稚園就園奨励費事務の適切な実施	4.0	A	小学校体験入学の効果的な実施	学校等											
	⑧ 特別支援教育の推進	41	「合理的配慮」の提供	4.0	A	「合理的配慮」の提供	学校等	4.0	A	19	個別的教育支援計画の作成率	70%	100%	100.0	100.0%	A	特支援体制調査	100.0
		42	特別支援教育支援員の配置	4.0	A	特別支援教育支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A	20	特別支援教育を理解している教員の割合	データなし	100%	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
		43	教育支援委員会の適切な開催	4.0	A	校内の相談・指導体制の確立	学校等	4.0	A									
		44	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A									
		45	特別支援教育に関わる担当者研修会の開催	4.0	A	特別支援教育に関わる研修会の開催	学校等	4.0	A									
		46	就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	学校等	4.0	A									
		47				子どもの情報の共有	学校等	4.0	A									
		48				個別的教育支援計画の作成	学校等	4.0	A									

大項目	中項目	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
			達成度平均	総合評価	達成度平均	総合評価	評価平均	総合評価
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	所見		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 3.8	総合評価: A	評価平均: 86.4%	総合評価: A
	所見(幼稚園)							
	所見(佐々小)		一人一人の可能性を伸ばす教育の推進については、教育支援員及びICT支援員等を適切に活用し、校内研究による授業改善(伝え合いを取り入れた学習)を軸に確実に成果が上がっている。また、ICTの効果的な活用により、県学力や全国学力学習状況調査、年度末の町学力調査の結果においても、年々確実に向上し、ほとんどの学年で全国平均を上回っている。今後も今の指導方針を継続し、さらに学力向上を図り、児童の可能性を伸ばす教育の実現を目指す。また、通級指導教室や特別支援学級等における、特別支援教育の指導体制を強固なものにし、情緒的に不安定だった児童の多くが、落ち着いた学校生活を送っており、学校全体の雰囲気も大きく変わった。特別に支援が必要な児童もそうでない児童も、学習に挑む姿に安定感があり、「心豊かでたくましく生きる子ども」の育成ができています。					
	所見(口石小)		・校内研究の柱として算数科授業の質の向上を取組の柱とした。各種学力調査においては、全国平均を下回った。各学年の課題を分析して授業改善や家庭学習による学力向上に努めた。一方で、課題だった自己肯定感が高まった。今後は、内的対話から一歩進めて、相互の対話で思考力等を高める。そして、低学年から基礎基本の定着と学びに向かう姿勢を育てながら主体的・対話的で深い学びのある授業実践を推進していく。 ・特別支援教育に関しては、特別支援コーディネーターによる伝達講習を数回実施した。個に応じた合理的な配慮について職員で研修を深めることができた。 ・両小学校の児童同士の交流については、コロナ感染拡大防止の観点で児童同士の交流は中止した。職員の交流に関しては、3校研の授業研究に参加するなど継続した。					
	所見(佐々中)		生徒一人一人に「確かな学力」を身に付けさせるために、主体的に学びに向かう態度の育成を図りながら、基礎学力の定着を図った。さらに、自己実現のための生徒支援体制の確立に努めた。また、教職員の資質・向上のために県教育センターの援助をいただき授業改善に取り組んだ。学力向上には即効性はないが教職員の意識の改善につながることができたと考える。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら職場体験、修学旅行を実施することができた。					
所見(委員会)		新型コロナウイルス感染症による学級閉鎖による授業時数の確保が大きな問題であったが、夏季休業期間の短縮や学校行事の精選、週時間割の工夫で対応し、教育課程は完全に実施できた。全国学力調査は、小学校・中学校とも全国平均を上回ることができたが、長崎県学力調査では、中学校が平均を下回ったが、英語に関しては初めて県平均を上回った(中3)。また、町の学力調査においては小学校は全教科において全国平均レベルであったが、成績が下降気味の学年もあることから低学年のうちから特に国語、算数の日々の授業内容の定着を図る必要がある。また、中学校は数学と英語に課題が見られたことから学び直しが必要であり、英語科研修並びに授業改善を今後も継続していく必要がある。 ICT機器の活用については、タブレットを活用した授業支援や夏季休業等でのタブレットの持ち帰り学習を実施したほか、インターネット環境が整っていない児童生徒に対してルーターを無料で貸与し持ち帰り学習が実施できるようにするなど、児童生徒の「主体的・対話的」で「深い学び」に繋がる授業づくりの支援を行うことができた。 3校共同研究の取組により充実した生徒指導を行うことができた。今後も継続して関係機関と連携して取り組んでいきたい。 特別支援教育については、大きな課題であるが、支援員の配置については、特別支援教育の充実には寄与している。 キャリア教育については、地元出身者による講話が子どもたちの目標や夢に向けての励みとなり、引き続き実施していきたい。						



評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 3.9	総合評価: A	評価平均: 97.8%	総合評価: A
2 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進	所見(佐々小)	学級経営を軸とした人間関係の構築と活性化を図るために、Q-Uテストの結果を詳細に分析し、生かしている。さらに、確固たる実践力を高めるために、教育課程において体験活動の充実を図っている。道徳教育については、教職員相互に日々の授業改善について研修や情報交換を行い、子どもの心に響く指導に努めている。また、人権教育、平和教育等、教室で学習した内容が、日常生活等において実践につながるよう、特別活動等を中心とした体験活動の充実も図っている。図書館教育については、図書室のリニューアルや子どもの読書意欲を高める様々な活動により、読書活動に取り組もうとする意欲の高まりが学校全体にある。				
	所見(口石小)	・体験学習や交流学習は、コロナの影響を大きく受けた。中止をやむなくされたものも多いが、可能な限り実施できる方法を模索して取り組むように努めている。運動会は、参加人数の制限や種目の取捨選択で午前中開催という形で実施した。修学旅行は予定通り実施した。宿泊体験学習は日帰りの野外体験学習に変更した。 ・学校図書館の一人当たりの貸出冊数は目標値を上回ることができた。				
	所見(佐々中)	豊かな人間性、社会性を育む教育の推進のために、長崎っ子の心を見つめる教育週間における道徳授業の実施および平和集会や人権集会等で生徒の規範意識や道徳心を高める取組を行った。いじめ問題については、早期発見・早期対応を徹底し、いじめを許さない態度・雰囲気醸成に取り組んだ。現在、解消率は100パーセントとなっているが、今後も定期的なアンケートの実施等を徹底する。また、読書活動の充実を通して、読解力の向上および学力向上へ取り組んできた。貸出し冊数も徐々に向上しているため、今後も図書司書と連携しながら対応していきたい。				
	所見(委員会)	「我が国の伝統や文化について理解と愛情のある児童生徒の割合」「周囲や相手のことを思いやって生活できている児童生徒の割合」「戦争の悲惨さや平和の尊さについて理解を深めている児童生徒の割合」が向上した。特に、「周囲や相手のことを思いやって生活できている児童生徒の割合」の向上は児童生徒の心情的な成長として今後も高い評価を維持したい。佐々町を教材とした学習は定着した。「学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数」は昨年度から大幅に改善したが、中学校においては昨年度に引き続き目標値を達成できなかった。さらなる対策が必要である。				

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
3 健やかな体を育成する教育の推進	① 体力向上の取組の推進	76	体力向上に対する支援・指導	4.0	A	体育の授業の充実	学校等	4.0	A	33	全国体力・運動能力調査の到達度(全国比)	1.010	1.000	0.950	95.0%	A	体力運動能力調査	-
		77	運動に親しめる環境の整備	4.0	A	運動の機会の充実(部活動を含む)	学校等	4.0	A	34	体育の授業で運動ができるようになった児童生徒の割合	84%	85%以上	90.3	106.3%	A	体力運動能力調査	89.1
		78				体育的行事の充実	学校等	4.0	A	35	体育の授業が楽しいという児童生徒の割合	89%	90%以上	91.5	101.7%	A	体力運動能力調査	92.6
		79				スポーツテスト結果の有効活用	学校等	4.0	A									
	② 望ましい生活習慣を身につける取組の推進	80	「佐々っ子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々っ子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	4.0	A	36	就寝時刻(中学生12時より早い時刻、小学生10時より早い時刻)	小:72%	80%	73.2	91.5%	A	学校運営調査	70.6
		81	佐々っ子応援団活動の推進	4.0	A	「あいさつ」指導の徹底	学校等	4.0	A			中:77%		80.3	100.4%	A		81.3
		82				望ましい生活習慣を身につけさせるための日常的な取組	学校等	4.0	A	37	起床時刻(6時30分より早い時刻)	75%	80%	68.8	86.0%	A	学校運営調査	70.3
	③ 食育の推進	83	「佐々っ子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々っ子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	4.0	A	38	「食」に関する栄養教諭による指導回数	データなし	50回	17.7	35.3%	D	実態調査	5.0
		84	給食の充実に関する支援	2.7	C	栄養教諭を活用した食育指導の実施	学校等	2.7	C	39	朝ご飯の摂取率	99%	100%	92.9	92.9%	A	学校運営調査	94.4
		85				給食指導の充実	学校等	4.0	A									
		86				個別的な健康相談の実施	学校等	4.0	A									

評価	項総合評価(活動指標)		項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 3.8	総合評価: A	達成度平均: 3.9	総合評価: A	評価平均: 88.6%	総合評価: A
3 健やかな体を育成する教育の推進	所見(佐々小)	体力向上の課題の改善を図るために、日課の中に「パワーアップタイム」の時間を設定し、短距離走や大縄跳びなど、時期に合わせた体力向上の取組を実施し、運動能力調査でも改善が見られた。さらに、体育部が2人体制となっており、これまで以上に体育の時間の充実を図るための手立てが、学年に応じて講じられている。体育の学習内容が学校行事や体験活動とのつながるように意図的に設定し、年間を通じた体力向上に努めている。また、生活指導及び保健指導については、これまでの流れと併せて、メディア教育を取り入れ、児童及び保護者にも指導方針を浸透させている。新型コロナウイルス対策や熱中症対策など、日頃の基本的な生活習慣の徹底を図ることで、未然防止に努めている。現在の教育活動の継続を基本とし、さらに工夫改善を図る。				
	所見(口石小)	・新体力テストの結果をもとに課題解決や体力向上を目的に長崎県のフィットネスチャレンジに学校全体で取り組んだ。 ・食育指導について、コロナ対策として、直接教室での指導を行わず、栄養教諭自作の教材を使った指導を各学級2回ずつ実施した。(茹で干し大根・給食ができるまでの過程)また、2年生においては担任とのT・T指導に取り組んだ。 ・就寝時刻・起床時刻など生活リズムは中学年の時期から崩れる傾向があるので、家庭との連携を強めるために生活習慣カレンダーを学期始めの時期に実施した。				
	所見(佐々中)	男女共修による授業や多くの競技に親しめる機会を設定した。また、スポーツテストの個人分析は、自分の体力等の特性を知り、改善する指導に生かしたが、県平均以下が非常に多い結果となった。新型コロナウイルス感染症対策のため集団での取組に制限がかかったことや、生活習慣との因果関係がありそうである。食育については、栄養教諭による食育指導や「食育だより」の発行等で保護者への啓発も含め充実した取組ができた。				
	所見(委員会)	新型コロナウイルス感染症の影響により、体育や中学校の部活動を制限など、児童生徒の運動機会が減少したが、そのような中で各学校は個別的にできる体力向上に工夫しながら取り組んだ。全国体力・能力調査においては、全国平均には若干及ばなかったものの概ね達成できた。「食」に関する栄養教諭による指導回数については、新型コロナウイルス感染症の影響により予定どおり実施できなかったため目標値を大きく下回ってはいるが昨年度よりも指導を行うことができた。今後はICTの活用するなどして指導を行えるようにしていきたい。就寝・起床、朝食の摂取率は全体的には良好であるが、中学校が小学校と比べて低くなっている。個別的に課題を持つ児童生徒もおり、家庭と連携した個別指導が必要である。				

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
4 信頼される学校づくりの推進	① 生徒指導・相談体制の充実	87	生徒指導主事・生活指導主任研修会の開催	4.0	A	生活規律の適切な指導	学校等	4.0	A	40	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
		88	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A	41	不登校児童生徒の割合	1.06	県平均以下(2.2)	2.6	86.1%	A	実態調査	1.7
		89	佐々子3ヶ条の啓発の支援	4.0	A	佐々子3ヶ条の繰り返しの指導	学校等	4.0	A	42	学校のきまりを守っている児童生徒の割合	91.4%	95%	87.2	87.2%	A	全国学力調査	-
		90	問題行動対応への適切な指導	4.0	A	問題行動への適切な対応	学校等	4.0	A	43	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	71.0%	80%	78.9	78.9%	B	全国学力調査	-
		91	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	4.0	A	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	学校等	4.0	A	44	スクールカウンセラーの配置(県事業)	各校1人	現状維持	1.0	100.0%	A	実態調査	1.0
		92	不登校対策委員会の開催	4.0	A	不登校対策の充実	学校等	4.0	A	45	スクールソーシャルワーカーの配置(県事業)	町内1人	現状維持	1.0	100.0%	A	実態調査	1.0
		93	SC、SSW、心の教室相談員の配置	4.0	A	相談活動の充実	学校等	4.0	A	46	心の相談員の配置	各校に配置	現状維持	1.3	100.0%	A	実態調査	1.3
	② 学校・家庭・地域の連携を図る取組の推進	94	地域人材活用への支援	4.0	A	地域人材の活用	学校等	4.0	A	47	学校だより等による発信	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
		95	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実	4.0	A	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実	学校等	4.0	A	48	学校評価の公表	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
		96				学校だより、学級だよりの発行	学校等	4.0	A	49	学校支援ボランティアの実人数	96人	100人	98.3	98.3%	A	学校運営調査	95.3
		97				学校評価結果の公表と適切な活用	学校等	4.0	A									
	③ 教職員の指導力の向上	98				学校運営協議会の充実	学校等	4.0	A									
		99	研修会受講の支援・指導	4.0	A	研修会への積極的な参加	学校等	4.0	A	50	町教委主催の各主任研修会の開催数	12回	12回以上	12.0	100.0%	A	実態調査	10.7
100		各主任研修会の開催	4.0	A	研修内容の適切な校内伝達や活用	学校等	4.0	A	51	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数	3回	3回以上	3.0	100.0%	A	実態調査	3.0	
	101	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の充実	学校等	4.0	A										

所見	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)
		達成度平均: 4.0 総合評価: A	達成度平均: 4.0 総合評価: A	評価平均: 95.9% 総合評価: A
所見(佐々小)	いじめ対策や不登校対策については、早期発見・早期対応を心がけ、一人一人、一つ一つの事案に丁寧かつ迅速に対応するよう努めている。地域人材の活用については、各学年の教育課程に意図的に取り入れ、より一層活用・充実できるようにしていく。教職員の指導力については、外部講師の招聘や校内研・3校研の充実により、向上を図っている。学校運営協議会については、学校情報の公開を進め、意見等も取り入れながら学校運営に活用している。特に、学校運営に関わる職員組織や学級担任以外の用務、主な教育活動の計画等では可能な限り情報提供をしている。また、職員一人一人と顔が見えるつながりを構築するよう、様々な場面を意図的に設定している。			
所見(口石小)	・いじめにつながる問題行動を見逃さないようにした結果、いじめ認知数が増えた。一方で、担任と管理職の報連相が不十分で児童本人・保護者へ不安をかけた事例が発生したため、その後、初期対応と組織対応を軸にいじめ対応を強化した。 ・特別な配慮を要する児童については、特別支援教育COを中心に、担任やSC、SSW、心の相談員が連携して組織的対応を進めることができた。 ・職員の外部研修は、リモート形式の研修会などを活用して参加を促した。			
所見(佐々中)	信頼される学校づくりを推進するために、県教育委員会及び町教育委員会からの助言を受けながら教職員の資質・能力の向上をはじめ、問題行動の早期発見・即対応に努めてきた。また、情報発信の観点からは、学校評価の公表や学校だより、学年だより、学級だより、進路だより、保健だより等の計画的な発行を行った。 佐々町3校合同研究により小中の連携を深め、児童生徒を9年間のスパンで見守ることができている。			
所見(委員会)	生徒指導については、全体的には良好であるが、個別に課題を持つ児童生徒がおり、関係機関等との連携を進めていきたい。いじめの解消率は100%と良好であるが、「見落とし」又は「見えない」いじめがないかを常に考えた指導を行っていく。不登校児童生徒の割合は、小学校では県平均以下であるが、中学校においては、昨年度と比較すると県平均を大幅に上回った。QU検査の活用等の予兆の段階での対応の強化を行う必要がある。学校ボランティアの実人数は確保できたが、新型コロナウイルス感染症のためにサポートティーチャー等の地域と連携した活動は昨年度に引き続き不十分であった。			



大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
5 教育環境整備の推進	① 子どもの安全確保対策の推進	102	危機管理マニュアルに従った指導・対応	4.0	A	危機管理マニュアルに従った指導・対応	学校等	4.0	A	52	通学路安全点検の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
		103	防犯・防災・交通安全教育の支援・指導	4.0	A	防犯・防災・交通安全教育の実施	学校等	4.0	A	53	避難訓練の実施回数	小学校:3回 中学校:2回	現状を維持	小学校:3.5回 中学校:2回	77.8%	A	実態調査	小学校:3.5回 中学校:2回
		104	通学路安全推進会議の開催	4.0	A	通学路安全点検の実施	学校等	4.0	A	54	佐々子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	70人	70	100.0%	A	後期計画	70
		105				避難訓練の実施	学校等	4.0	A	55	「危機管理マニュアル」の作成率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0

大項目	中項目	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
			達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 94.4%	総合評価: A
5 教育環境整備の推進	所見		交通安全や生活事故等の発生時には、管理職を中心に危機管理マニュアルに沿って適切に対応する訓練している。教育活動において、児童の生命や安全を第一とした取組を、管理職、養護教諭等が随時確認している。また、事故発生時を想定し教職員の動きを指導しており、万全の体制で教育活動に取り組んでいる。さらに、今年度は年度当初に養護教諭を中心にアレルギー対応の研修を全員で行い、アナフィラキシーに備えて校内での職員の動きまでを確認し合った。また、毎月安全点検を行い、安全な教育環境の確保に努めている。					
	所見(口石小)		・避難訓練を年間4回計画していたが、コロナの影響で2回の実施となった。その分、日々の生活や行動と関連づけた指導を繰り返し行ってきた。 ・交通安全については、秋に自転車教室を実施した。自転車の乗り方や正しい歩行など理解に終わらず、身に付くまで指導を徹底する。					
	所見(佐々中)		毎月校内の安全点検を行い、危険箇所の改善に努めている。町教委の指導の下、通学路安全点検を行った。併せて、校内でも全生徒に登下校の指導を行ったり、職員が登校指導や下校指導行ったりした。自転車通学生徒に関しては、自転車点検や交通ルールについての講習会を開き安全指導を徹底し、自転車通学生のみを集い安全指導を実施し安全指導に努めた。避難訓練については、避難経路の確認、消火訓練、通報訓練、地震時などの避難訓練など現場で起こりうることを想定しながら実施した。今後は不審者対策による避難訓練も取り組みたい。					
	所見(委員会)		通学路については、指摘箇所10箇所について「佐々町登下校安全プラン」に従って合同点検を行い対策を協議した。併せて、警察と連携し見守り活動を実施した。また、危機管理マニュアルに従って、地震、豪雨、アレルギー対応等についての訓練や研修の充実を指導した。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値					
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査	
6 学校・家庭・地域の連携の推進	① 地域教育力(放課後対策等)の充実	106	放課後子ども教室の開催	-	-					56	放課後子ども教室参加児童数	60人	150人	50	33.3%	D	後期計画	17	
		107	土曜学習の開催	4.0	A					57	土曜学習参加児童数	データなし	450人	347	77.1%	B	実態調査	359	
		108	佐々子応援団活性化への取組	4.0	A					58	佐々子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	70人	70	100.0%	A	後期計画	70	
	② 地域教育を担う人材の育成	109	地域の担い手の発掘と育成への取組	4.0	A					59	学校支援ボランティアの実人数	96人	100人	98	98.3%	A	実態調査	94	
		③ 青少年健全育成活動の支援	110	佐々子ゆめプランの啓発の支援	4.0	A	佐々子ゆめプランの啓発	学校等	4.0	A	60	佐々子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	70人	70	100.0%	A	後期計画	70
			111	佐々子応援団活性化への取組	4.0	A													

大項目	中項目	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
			達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 81.8%	総合評価: A
6 学校・家庭・地域の連携の推進	所見		昨年度に引き続き校長が登校時校区内安全指導を毎日実施している。例年、年度末に、あいさつ運動に参加されている方々を学校にお招きし、感謝の集会を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかった。毎朝6年生が校門であいさつ運動を実施することが定着し、通行する方々に気持ちのよい挨拶ができるようになっている。学校全体で見ると、挨拶ができる子どもとできない子どもの二極化が進んでいるので、学校全体に広げていきたい。					
	所見(口石小)		・あいさつ運動は、地域の方に加えて、PTAの取組で各子ども会で地区ごとに毎月取り組んだ。 ・地域との連携については、コロナ禍ではあったが地域の婦人会を中心に感染予防対策の徹底の中で実施出来たものもあった。感謝集会は実施できなかったが作ったお米や梅干しを婦人会などに贈ったり、DVDを作成して手紙と一緒に贈ったりして相互交流を模索した。今後とも地域と共に児童の健やかな成長を促していく。					
	所見(佐々中)		佐々子夢プランを各家庭に配布し、周知・徹底を図った。また、アンケートの実施を行いPTAの協力もいただきながら集計、分析を行っている。佐々子応援団の協力のもと、朝の立哨運動など子どもたちの見守り活動を熱心にしていただいた。また、PTAとも連携してあいさつ運動実施するなど連携した活動を行った。					
	所見(委員会)		「佐々子応援団」活動については、例年と変わりなく実施することができたが、放課後子ども教室は新型コロナウイルス感染症の影響により中止したため、前年度と比較して参加者は増えたものの目標値には達成できなかった。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
7 生涯学 習・社会 教育の 推進	① 生涯学 習機会や 内容の充 実と支援	112	各種講座の充実への支援	4.0	A	各種講座の充実	公民館	4.0	A	61	各種講座参加者数(年間)	481人 (H26)	700人	366.0	52.3%	D	後期計画	512.0
		113	公民館学習グループ等の自主学 習グループの育成	4.0	A	公民館学習グループ等の自主学 習グループの育成	公民館	4.0	A	62	公民館活動参加者数	365人	450人	425.0	94.4%	A	後期計画	439.0
										63	講座参加者の満足度	データなし	70%以上	98.2	140.3%	A	後期計画	97.9
	② 読書機 会の充実	114	図書館機能充実のための支援・ 指導	4.0	A	書籍の整理と選書の充実	図書館	4.0	A	64	町民一人当たりの貸出冊数	13.3冊 (H25)	現状以上	10.4	78.2%	B	後期計画	9.7
		115				「読み聞かせ」の実施	図書館	3.0	B	65	読み聞かせへの参加世帯数(土・日の参加)	15世帯程度	現状以上	3.7	24.4%	D	後期計画	14.0
	③ 人権教 育の推進	116	人権に関する講座の開催	4.0	A	人権に関する講座の開催	公民館	4.0	A	66	人権に関する講座の開催数	1回	1回以上	1	100.0%	A	実態調査	1
	④ 大学な どと連携 した学習 機会の充 実	117	県立大学と連携した学習機会の 充実	-	-	県立大学と連携した講座や活動の実施	公民館	-	-	67	県立大学と連携した講座や活動の実施数 (※新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。)	4回	4回	#DIV/0!	-	-	実態調査	-

7 生涯学 習・社会 教育の 推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 3.8	総合評価: A	評価平均: 81.6%	総合評価: A
所見(公民館)		新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で講座開催予定回数39回のうち、22回が開催を中止となった。しかし、講座参加者の満足度は98%と高く講座内容には満足していただけた。なお、県立大学と連携した講座は、オンデマンド形式でのオンライン講座だけとなりインターネット環境を有しないと開催できない。今後環境整備を検討していただきたい。					
所見(図書館)		書籍の整理については、定期的に蔵書整理を行い、選書については、分野別に計画どおりの選書ができた。貸出冊数については、昨年度よりも増となったが、目標値を下回った。読み聞かせの実施については、コロナ禍により、約40%が中止となったこともあり、読み聞かせの参加世帯数については、目標値を下回った。					
所見(委員会)		新型コロナウイルス感染症の影響で講座の中止など例年とは異なる対応をしていく中で、できる範囲でイベントを行い成果もほぼ達成できた。しかし、公民館の所見にもあるとおり、県立大学との連携した講座では、施設のインターネット環境の課題などが出ており、講座開催を進めていくうえで今後の検討課題としたい。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
8 生涯ス ポーツ の推進	① 社会体 育団体の 活動の育 成・支援	118	社会体育団体の育成・支援	4.0	A	活動の活性化	スポー ツ団体	4.0	A	68	スポーツ少年団各部への登録者数及びクラブ数	254人	現状以上	241	94.9%	A	後期計画	228
		119	登録者数及びクラブ数増加のた めの取組	4.0	A	登録者数増加のための取組	スポー ツ団体	4.0	A			14部	現状以上	13	92.9%	A	後期計画	13
	② 子ど もから 大人ま で楽し める スポー ツイ ベント の推 進	120	スポーツイベントの開催	4.0	-	スポーツイベントの開催	スポー ツ団体	4.0	A	69	スポーツイベントへの参加者数	約2,000人	2000人	1,077	53.9%	-	後期計画	85
		121				スポーツイベントの運営	スポー ツ団体	4.0	A	70	体育協会各部への登録者数及びクラブ数	365人	現状以上	306	83.8%	A	後期計画	304
	③ スポ ーツ指 導者の 育成	122	スポーツ指導者の育成・確保	4.0	A	スポーツ指導者の育成・確保	スポー ツ団体	4.0	A			16部	現状以上	13	81.3%	A	後期計画	13
	④ 体育施 設の有 効活 用	123	体育施設の利用促進	4.0	A	体育施設の積極的な活用	スポー ツ団体	4.0	A	71	社会体育施設の利用者数	117,000人	現状を維持	89,677	76.6%	B	実態調査	98,410
		124	体育施設の適切な維持・管理	4.0	A					72	維持管理、運営手法の検討	未検討	改善	個別計画策定	100.0%	A		個別計画策定

8 生涯ス ポーツ の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 88.2%	総合評価: A
所見(スポーツ関係団体)		スポーツ少年団、体育協会ともに目標値を下回っている。今後は周知活動により増加を図っていく。					
所見(委員会)		新型コロナウイルス感染症の影響により、ジョギングフェスティバルをはじめ、多くのイベントが中止となったが、ナイターソフトやソフトテニスの大会など開催可能なイベントは実施した。「社会体育施設の利用者数」についても、活動自粛等により数値が減少している。スポーツ少年団、体育協会への登録者数は、目標値は下回っており、登録者増加に向けた取組が課題である。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	① 自主文化事業の開催	125	自主文化事業の開催	-	-					73	文化にかかわる発表会への参加者数 (※新型コロナウイルス感染症の影響により発表会を実施できなかった。)	2,700人	3,000人	0	0.0%	-	実態調査	0
	② 学校教育における郷土教育の推進	126	「佐々町博士」の編集・改訂	4.0	A	「佐々町博士」の活用	学校等	4.0	A	74	「佐々町博士」(歴史分野)の活用度	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	100.0
	③ 社会教育講座と公民館講座との連携	127	郷土史学習の推進	4.0	A	郷土史学習の実施	公民館	4.0	A	75	社会教育講座、公民館講座における郷土学習の開催回数	5回	現状以上	2	40.0%	D	実態調査	3
	④ 文化遺産・歴史遺産の保存と活用	128	文化財の適切な保存・保護	4.0	A					76	旧郷土資料館収蔵物の適切な保存	価値評価実施	適切な保存	一部整理	100.0%	A		一部整理
		129	文化遺産・歴史遺産についての広報	4.0	A					77	町指定文化財数	11件	13件	12	92.3%	A	後期計画	12
									78	佐々歴史リーフレットの改訂	-	完成・配布	実施済	100.0%	A		実施済	

9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4	総合評価: A	評価平均: 86.5%	総合評価: A
所見(学校)		(佐々小)平成29年度より新しくなった「佐々町博士」を活用して学習ができています。児童にとって、分かりやすい内容で、効果的な学習を展開している。特に、児童の興味・関心を高める場面においては有効である。「佐々町博士」を窓口、郷土教育をさらに広げ、郷土を愛する子どもたちを育成していきたい。(口石小)4年生の社会科で、三柱神社に奉納されている面を、実際に借用して実物を見せたり、神楽の動画を見せたりして児童の興味関心を高めた。					
所見(委員会・公民館)		(公民館)今回は佐々町の歴史を学ぶ特別講座を3回企画した。そのうち1回は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に中止した。しかし、1回あたりの受講者数(21名)・満足度(87%)共に高い。このことからわかるように郷土史への住民の関心度は高い。座学で学び、その後現地探訪が出来ればより理解が深まると思うので、今後企画したい。 (委員会)コロナの影響により、町民文化祭や自主文化事業を中止にしたため、目標値を達成できなかった。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標						昨年度値				
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値		該当年度値	達成度	評価	調査
10 新たな地域文化創造の推進	① 町民主体の文化芸術活動への支援	130	芸術・文化活動への支援	4.0	A					79	文化にかかわる発表会への参加者数 (※新型コロナウイルス感染症の影響により発表会を実施できなかった。)	2,700人	3,000人	0	0.0%	-	実態調査	0
	② 子どもたちが芸術文化にふれあう機会の提供	131	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供	2.7	C	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の設定	学校等	2.3	D	80	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供数	2回	2回以上	1	50.0%	x	実態調査	2
	③ 施設の有効利用と管理運営	132	施設利用の促進	4.0	A					81	文化会館年間利用者数 (※新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少した。)	29,500人 (H26)	現状以上	17,809	60.4%	C	後期計画	10,867
		133	施設の適切な維持管理、運営方法の検討	4.0	A					82	維持管理、運営方法の検討	未検討	改善	個別施設計画策定	100.0%	A	実態調査	個別施設計画策定
④ 地域交流センターの利用促進	134	地域交流センターの利用促進	4.0	A					83	地域交流センターの利用者数 (※新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少した。)	データなし	35,000人	15,731	44.9%	D	総合戦略	16,637	

10 新たな地域文化創造の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 3.7	総合評価: A	達成度平均: 2.3	総合評価: D	評価平均: 63.8%	総合評価: C
所見(学校)		(佐々小)例年、全校音楽を定期的に取り入れ、来校者への御礼等、適宜全校合唱を披露し、合唱の喜びや芸術に対する親しみを感じさせていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、まったくできなかった。また、清峰高校吹奏楽部演奏・コーラス部合唱等、多種多様な芸術・文化と接する機会を設けていたが、同じく新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかった。「文化芸術による子供の育成総合事業」についても実施できなかった。(口石小)コロナ禍であり、青少年夢劇場など、芸術・文化にふれ合う機会が制限された。校内での夏休み作品展などで児童相互の鑑賞の機会を設けた。(佐々中)学校での文化発表会などを通して音楽や美術など文化的な学習を計画的に実施することができた。					
所見(委員会)		新型コロナウイルス感染症の影響により、大部分のイベントが中止となった。また、活動自粛により施設利用者数も減少している。					

## 令和3年度 佐々町教育委員会自己点検・評価シート

番号	項目	評価	所見
1	教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。	A	佐々町教育方針の改定、第3期佐々町教育振興基本計画、佐々町学校評価ガイドラインの策定を行った。
2	学校その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。	/	該当事案はなかった。
3	法令に基く認可に関すること。	/	該当事案はなかった。
4	教育財産の取得及び処分について、町長へ申し出を行うこと。	/	該当事案はなかった。
5	教育予算、その他議会の議決を経るべき事件の議案の作成について、意見を申し出ること。	A	口石小学校教室増設及び屋外トイレ改善について予算化を申し出た。両工事とも年度内に竣工した。
6	教育委員会の規則の制定又は改廃を行うこと。	A	佐々町立学校教職員人事評価に係る苦情相談実施要綱、佐々町立学校教職員苦情等審査会実施要領、行政手続きにおける押印廃止のための関係規則のための整備に関する規則の一部改正を行った。
7	教科用図書の採択に関する基本方針を定めること。	/	本年度は教科書採択はなかった。
8	学校その他の教育機関の施設及び整備計画の大綱を定めること。	A	佐々町公共施設等総合計画に基づく社会教育施設個別施設計画を策定した。
9	教育長、教育委員会の事務局職員及び教育委員会の所管に属する学校以外の教育機関の職員の人事に関すること。	A	教育委員会の所管に属する機関の人事について承認した。
10	校長、教員その他の教育関係職員の人事に関すること。	A	2月の臨時教育委員会で、教職員の人事について承認した。
11	学校の通学区域の設定及び変更を行うこと。	/	該当事案はなかった。
12	法令及び条例に基く委員の委嘱及び解嘱を行うこと。	/	該当事案はなかった。
13	校長、教員その他の教育関係職員の研修計画の大綱を定めること。	A	町独自の大綱は定めていないが、校長・教頭については、毎月1回の定例研修会を開催している。その他、教務主任、研究主任、生活指導主任・生徒指導主事、養護教諭、特別支援教育担当者の研修会をそれぞれ3回実施した。また、町雇用の特別支援教育関係の支援員も含めた研修会を実施した。
14	校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒児童の保健、安全、厚生及び福利に関する基本方針を定めること。	A	佐々町要保護及び準要保護児童生徒就学援助に関する要綱の一部改正、佐々町小中学校給食費負担軽減事業補助金交付要綱の一部改正、佐々町教職員安全衛生管理規程の一部改正を行った。
15	学校給食の企画及び指導方針を定めること。	/	該当事案はなかった。
16	文化財の指定に関すること。	A	狸山支石墓群から出土した鯉節型大珠の県文化財指定を目指した、専門家による調査を行った。